



第 57 号

2022 年 10 月 28 日



埼玉県合唱連盟

〒330-8557 さいたま市浦和区常盤4-12-13
(朝日新聞さいたま総局内)
TEL 048-824-8161
FAX 048-831-5310
<http://saicn.net/>



こんにちは。たまりん♪からのお知らせです！

「たまりん♪」のホームページ
【たまりん♪の部屋】ができました！

ホームページ【たまりん♪の部屋】を通して、「たまりん♪」の事をもっと身近に感じて欲しいと思います。このページでは、「たまりん♪」「パパりん♪」「ママりん♪」のプロフィール、ダウンロード用の公式デザイン集・ぬりえ、グッズ紹介などの情報発信をしています。県連ホームページから入れますので、ぜひご覧ください！

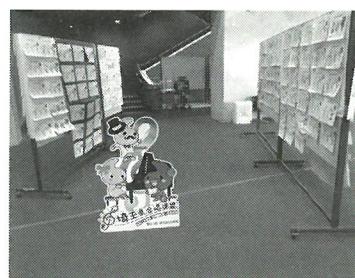


ぬりえ、ありがとうございました！

合唱祭での「たまりん♪ファミリー」ぬりえ募集に、数多くの作品をお寄せいただき、ありがとうございました！



力作揃いです！



会場内のぬりえ展

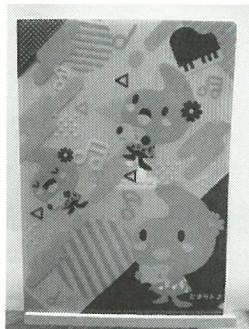
「たまりん♪ファミリー」のデザインが
自由に使えます！

「たまりん♪」「パパりん♪」「ママりん♪」のデザインを個人やご家庭、あるいは合唱団などで自由に使えます。ホームページ【たまりん♪の部屋】で使用上のルールをご確認の上、オリジナルキャラクター公式デザイン集からダウンロードしてください。



たまりん♪グッズ紹介

新作クリアファイルが大人気です！これからも新しいグッズを楽しみにしていてください。



合唱祭で販売しました



コンクールで販売しました



岸信介先生インタビュー

～子供たちがくれた花束のにおい～

インタビュアー：理事長 小野瀬 照夫

本日は、長年全日本合唱連盟理事長を務められた、岸信介先生にお話をうかがいます。

『高校生時代の合唱との出会い』

私は合唱との出会いは、埼玉県立浦和西高校でのことです。当時は、バレーボール部に入っていました。当時の先生に「お前良い声をしているから手伝いに来い」と言われ、混声合唱のテノールに誘われたのが合唱の始まりで、すっかり合唱にはまってしまいました。高校1年時の時、浦和混声合唱団が出来て、学生服を着て歌っていました。高校2年の時の関東大会が神奈川県立音楽堂であり、先輩に東洋一のホールで歌えるのは幸せな事だと言われながら、ラツソの「Matona mia cara」を日本語で歌いました。浦和混声合唱団に通いながらの高校生活でした。

『学生時代に仲間と行った地方公演、これがルーツ!』

進学した国立音楽大学は合唱が盛んでしたが、1960年代当時、声楽科は合唱の演奏旅行などが多く、合唱をやる場がなかったです。ある時、学内の仲間と男声カルテット、女声トリオとピアノ、チェロ、フルートのアンサンブルを作り、「中学生と小学生に生の演奏を聴かせたい」という趣旨で全国の教育委員会と校長会に手紙を書きました。山形県から返事が来て、録音テープを送ってほしいとのことで送ったら合格。飯豊（いいで）、小国（おぐに）、荒砥（あらと）へ演奏旅行に行きました。演奏会ではピアノやフルートを演奏すると子供たちが眼を丸くして見てくれる。演奏後子供たちがくれる花束が川で摘んできたばかりの青臭いにおいがするんですよ。それを持ってきてくれました。あの花の匂いと子供たちの輝く瞳が忘れない。大学3年間山形県に12校程行ったのが私の演奏のルーツです。演奏者と聴き手が身近にいて音楽で喜んでくれるという事が幸せでした。



『師の思い出』

大学卒業後、中学で2年間、浦和西高校で3年間講師をしました。その間も合唱の魅力に引き込まれた私は東京放送合唱団を経て、その後日本合唱協会で約10年間充実した合唱を経験いたしました。プロ合唱連合（東京放送合唱団・東京混声合唱団・日本合唱協会・二期会合唱団）では、イタリーオペラ来日公演の合唱に携わる等、貴重な経験をさせていただきました。山田一雄先生、秋山和慶先生、若杉弘先生、増田順平先生には、日本合唱協会で沢山の教えをいただきました。増田先生がトレーナーを務めておられ、そこで鍛えられましたね。増田先生からは「三和音の歌い方は平均律だと高いんだよ。もうちょっと低くしないと音程が上手く入らないでしょ」など、純正調の響きをたたき込まれその経験が良かった。その3名と一緒に行った演奏旅行は楽しかった。ヤマカズさんは指揮を振る度にテンポが違う。ラシーヌ讃歌の演奏はテンポの遅いこと…。こんなのが歌えるんだ！という感じ。高田三郎の「水のいのち」ではブレスはカンニングブレスでやれと言うのです。山田先生の棒は分かりにくいですが、楽しかったし音楽的に素晴らしいかった。“こういうものをやりたい”という事を指揮を通して伝えて来る。増田先生からは「山田さんの棒が分かるのには



3年かかるよ」と言わされていました。

『舫(もやい)の会発足と信条』

舫の会は、何団体もある私の合唱団を「会」として束ねてみませんか、との話が出たのがきっかけです。合唱団の中で名前を募集したところ、「舫い綱で岸につながれている」ということで「舫の会」が出来ました。最初はオーケストラ付きの曲も演奏していましたが、その経費を作曲家に合唱曲を依頼する費用に充てて、合唱界に恩返しをする。良い曲を生み出して皆さんに新曲を歌っていただけたらという趣旨で活動してきました。初演時に、作曲家が客席に並んでお互いの曲を聴くわけです。ある時、三善晃先生と松下耕先生が一緒になり、演奏会当日、三善先生が松下先生に「耕さん、良い曲書いたね」と言われて松下先生には、忘れられないひと言になったのです。互いの作品の良さを認め合いながら、その作曲家らしい作品を書いてもらえたから、というのが私のねらいです。2022年夏に第13回を開催し、舫は約40年継続しています。

『フリーの立場の大変さ』

自分が「フリー」になってからは、「病気になつ

たら負けだ」と思っていました。倒れたら医療費はかかるし収入は止まるということになる。でも最初から覚悟してきたことです。「フリー」は補償はないし倒れた時に誰も面倒見てくれない。でもお陰様で今まで何とかやって来られました。全日本合唱連盟理事長を引き受ける時、舫の会の皆様に集まつてもらいました。「理事長をやらせてもらう事になつたので任期の間は合唱連盟の仕事を優先させてもらいますがその辺のご理解をいただきたい」。舫の会に了解をいただき活動して参りました。

『未来に向けて』

現在、長引くコロナの影響で合唱人口や加盟団体が減る傾向にあります。コロナ後にどうもち直せるかが大事ですね。今後、各県連が全力を挙げて合唱人口と加盟団体を増やし、応援していただけるスポンサーを募る事が重要ではないかと私は考えます。

コロナが思った以上に長引いていますね。でも、その中でも合唱ができるという事はありがたい事だと思っています。

～ありがとうございました～

編集：理事 浅子 元



岸 信介（きし しんすけ）

国立音楽大学声楽科卒業。日本合唱協会にてコンサートマスターを務める。

指揮法を山田一雄、和声・合唱法を増田順平の各氏に学ぶ。毎日学生音楽コンクール声楽部門入賞。

NHK合唱コンクール等の審査員、全日本合唱センターや各地の合唱講習会等の講師としても、多方面にわたり活躍している。

「舫の会」—指導している合唱団の集まりーを主宰し、数々の新作を委嘱初演している。海外のコンサートにおいても高い評価を得る。

CD『岸 信介の世界 I、II (萩原英彦作品によるコンダクト・リサイタル／ピアノ：アンリエット・ピュイグ＝ロジェ女史)』『岸 信介の世界—全日本合唱コンクール全国大会出場団体・全日本おかあさんコーラス全国大会出場団体による—』『木下牧子女声合唱曲選—悲しみのようにひそかに—』好評発売中。

現在、全日本合唱連盟名誉会長、東京都合唱連盟顧問、日本合唱指揮者協会会員、東日本合唱祭顧問、日墳文化協会会員。

2019年藍綬褒章を受章。2020年第3回「くにたち賞」大賞受賞。



～温かい歌声と拍手の5日間～

第67回

埼玉県合唱祭



ママリン♪

2022年6月4日(土)

5日(日)

11日(土)・12日(日)

19日(日)

埼玉会館

彩の国さいたま芸術劇場

さいたま市文化センター

熊谷文化創造館さくらめいと



たまりん♪



理事長あいさつ

6月、5日に渡って第67回埼玉県合唱祭が開催されました。161団体、計3256

名のご参加がありました。ありがとうございます。

コロナ禍、集まるのも大変だけど、それでも歌う、晴れがましくステージに立つ。緊張しつつも、参加者の皆さんのお姿はとても誇らしげに見えました。

大人の女性の団を袖で聴きました。歌いだしの「りんー」のNの響きで息をのみ、「ごー」の柔らかい入りとクレッセンドで鳥肌、「花びらー」のHのさりげなさにまた鳥肌と私は鳥肌の重ね塗り状態。どれだけ練習を重ねてきたのだろう。出来うる限りの力が発揮できるようにしっかり練習をしてステージに臨む、この姿勢に感動しました。若い統制のとれた迫力の演奏があれば、このような大人の演奏も聴ける。これこそが合唱祭ならではの醍醐味です。

バックヤードでは、最小限度の人数で運営しました。

私が予算を削減し過ぎ、人数が足りず、係員の方々に大変な思いをさせてしまいました。また、芸術劇場では初めてリハーサルをするということでてんやわんや。たくさん歩かねばならずステージ直前に給水が必要な参加者もいました。本当にバックヤードは反省だらけです。来年はタイムスケジュールを1から考え直したいと思っています。

そんなブルー状態の私を救ってくれたのは、みなさんの誇らしいステージと「たまりん♪ぬりえ」です。ジュニアの方、美術部かというような達者な方、たくさんの方の「ぬりえ」がロビーに貼り出されました。1枚1枚、とてもありがとうございました。許可のとれた団体からHPの「たまりん♪の部屋」にて順次載せさせていただきます。

汗（冷や汗も）をかきながら一生懸命運営していますが、結局は参加者の皆さんの合唱愛と笑顔に救われている私たち。来年はこの深い反省を活かして、たくさんの方の前で歌える、聴ける合唱祭にしていきたいと野望を抱いております。ご参加お待ちしております。

(常務理事 南めぐみ)

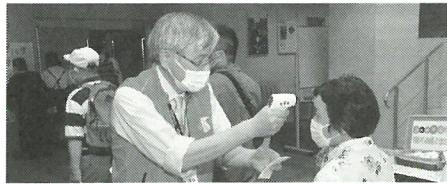
初出場おめでとうございます

- ◎西武台高等学校・西武台新座中学校合唱部～のいばら～
- ◎Chor Wisteria
- ◎川口市立高等学校・附属中学校合唱部
- ◎Youth Choir “Luminaries”

(出演順に掲載)



たまりん♪ファミリーも一緒に



検温にご協力いただきました

温かいご講評、ありがとうございました

撮影：スタッフ・テス株



6月5日の第1部に、ジュニア団体のみなさんが集まりました!!

日高市少年少女合唱団

コーラス・トゥッティ

コロナ禍で練習の制約が長く続き、ステージ発表が初めてのメンバーもいましたが、団員一丸となって本番に向けて練習し、成功を収めることが出来て良かったです。他団体の発表も生で聴き、良い刺激になりました。

児童合唱団「野うさぎ」

私自身、舞台上の緊張感を思い出す良い機会となりました。他の団体の発表では、声変わり前の小学生や変声途中の中学生の声を聴き非常に懐かしさを感じました。響きの良いホールで歌うことが出来てとても気持ち良く、すがすがしかったので幸せな気分でした。また参加したいです。

宮代ジュニアコーラスどんぐり

合唱祭は2回目の参加ですが、今回は年齢の近いジュニアコーラスばかりだったのでとても緊張しました。何回も何回も練習して、本番で息を合わせて楽しく発表できました。

他のグループの上手な歌をたくさん聴けて楽しかったです。

星の子合唱団

普段聴けない人の合唱が聴けて楽しかったです。

埼玉にこんなに子どもの合唱団があつてびっくりしました！

とても楽しかったです。また来年もして欲しいです。

第67回埼玉県合唱祭ジュニア団体みんなの声



さいたまシティジュニアコーラス

彩の国さいたま芸術劇場のホールはとても響きが良く、私たちも毎年合唱祭を楽しみにしています。今年も素敵なホールで歌うことが出来て、いつも以上に良い歌をお届け出来たと思います。

戸田市児童合唱団

久々の本番、ステージでの合唱で思いっきり声を出せたのが嬉しかったです。他の合唱団の歌も聴けて良かったです。

緊張したけどまた舞台に立って歌いたいです。ありがとうございました。

所沢市少年少女合唱団

感激しています。練習が再会できたこと、声を出すこと歌うことが出来て幸せを感じました。友だちと声と心を合わせて一生懸命歌いました。会場も盛り上がっててくれて、最高に楽しかったです。これからも楽しんで歌っていきます。

春日部ジュニアコーラス

互いに存在は知っていたものの、実際に演奏を見たり聴いたりする機会がなかったため、今年の合唱祭は格別楽しかったです。できれば、もっともっと多くの仲間と交流したい、心の底からそう思いました。

(編集：理事 三森 敏)

6月5日、第67回埼玉県合唱祭2日目の第1部は、県内で活動する少年少女、ジュニアの合唱団が集結する若さみなぎるステージとなりました。

出入りの時間を活用した各団の簡単なプロフィール紹介はとてもユニークで、演奏前の会場の雰囲気を盛り上げました。出場8団体の個性あふれる演奏には、会場から惜しみない拍手が贈られ、こども達にとっても記憶に残る演奏会になったこと思います。中でも、児童合唱団「野うさぎ」は、男女二人だけの合唱祭史上最少人数での演奏でしたが、歌声は芸術劇場に響き渡りました。二人の素晴らしい演奏とその勇気に会場から大きな拍手が沸き上りました。

子どもたちの未来とその可能性のために、この取り組みを続けていきたい。その思いを強くしました。

(ジュニア検討委員会 副理事長 本田 尚子)

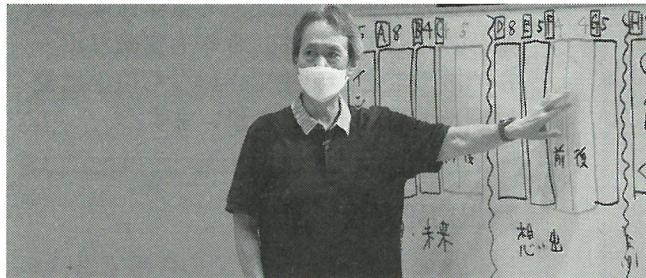


先生方の熱いご指導！

SAITAMAコーラスワークショップ2022

～指導者講習会＆コンクール課題曲講習会～

2022年7月9日(土) 於：さいたま市文化センター



武田雅博先生の講座



福永一博先生の講座

今年度のコーラスワークショップは、7月9日にさいたま市文化センターを会場に開催いたしました。昨年度のワークショップ終了時に「来年こそはコロナ禍の影響をそれほど受けずに開催したい」と言ったことを憶えております。しかし、今年度も新型コロナ感染症の猛威は衰えることなく、合唱界にネガティブな影響を与え続けています。そのような状況下でも、合唱の灯を消さないためにと700名を超える参加者が集い講習会を開催できたことは埼玉県の合唱界にとって大きな意味のある会になったと確信しております。

今年度も会の趣旨にご賛同いただいた素晴らしい先生方に講師をお勤めいただきました。

全日本合唱コンクール課題曲講習のご指導に当られた江上孝則先生、福永一博先生には各団体30分という短時間のレッスンでありながら、多くの学びを与える魔法のようなご指導をいただきました。

NHK全国学校音楽コンクールの中学校部門課題曲「Replay」のご指導を担当してくださった武田雅博先生には5校に対しての個々の個性に応じた多彩で的確なレッスンを施していただきました。



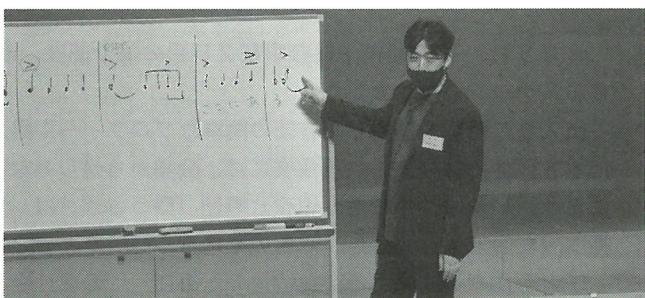
江上孝則先生の講座

そして今年度はじめて「指導者講習会」と銘打ち開催した会は相澤直人先生のハイレベルでありながら解りやすい指揮法、楽曲分析法のレッスン。中学生から各団体の指導者に至るまで幅の広い参加者を集め、休憩なしの2時間が短く感じられるほどの濃い内容の講習会となりました。

全てが深く魅力的で、4名の先生方のお力が各会場でスパークしているような熱量の極めて高いワークショップとなりました。

今回のワークショップにご参加いただけずに、この記事をお読みになっている皆様、来年度は是非ともご参加ください。「課題曲講習」がテーマではございますが、そこには「合唱音楽とは何か?」「演奏とは?」「表現とは?」「レッスンとは?」等、私たちの日々の合唱活動に必ずやプラスになる深く、多彩な学びがあります。

SAITAMAコーラスワークショップ2023は、さいたま市文化センターを会場として令和5年7月9日(日)に開催予定です。 (常務理事 佐々木憲二)



相澤直人先生の講座

撮影：埼玉県合唱連盟



～埼玉県代表の女声合唱を響かせました～

第45回 全日本おかあさんコーラス関東支部大会

2022年7月2日(土)・3日(日) 於: 静岡県三島市／三島市民文化会館ゆうゆうホール

7月2日(土)

コーラル・ソシア	優良賞
グラツィオーソ	大会賞
うちの女声合唱団	大会賞
浦和女声合唱団	大会賞
Ladies Choir 潮の音	大会賞
女声合唱団「曙」	優秀賞
春日部女声コーラス 清秀	大会賞

7月3日(日)

アンサンブル・ソアーヴェ	優良賞
女声合唱団 悠はるか	優良賞
女声合唱団 水脈	優秀賞
コーラル・デイジー	大会賞
コール・マーガレット	大会賞
コール・ドルチェ	優良賞

(出演順に記載)

下線の団体は全国大会への代表

第45回 全日本おかあさんコーラス全国大会

2022年8月27日(土)・28日(日) 於: 東京都世田谷区／昭和女子大学人見記念講堂

「夢ですか！」

女声合唱団 水脈 岡安 千恵子

「夢ですか！」とは7月3日関東大会の夜に、一足先に帰ったピアニストの太田先生から私へ届いた第一声です。

関東大会で、水脈の歌を評価していただけたことは、山根先生と太田先生と一緒に、地道にコツコツと練習を重ねて来た水脈にとって、思いが叶った瞬間でした。今回の2曲、「朝のパン」は日々の積み重ねの大切さを、「空をかついで」は大切なものを未来へ繋いで行く願いを、そんな思いの込められた曲です。いくつもの幸運に恵まれて、全国大会に出場できました。3年ぶりの開催で、いろいろな心配もありましたが、15人で無事に歌って来ることができました。この夏の貴重な経験を糧として、これからも「心の声を届ける」練習は続きます。最後になりますが、埼玉県合唱連盟の一員として歌えたことに、心から感謝いたします。ありがとうございました。

おかあさん
コーラス賞



撮影:スタッフ・テス株

お ら セ

☆第34回 埼玉ヴォーカルアンサンブルコンテスト

令和5年1月15日(日) 小学校の部・中学校の部	於 久喜総合文化会館
21日(土) 高等学校の部①・ユースの部	於 韶の森 桶川市民ホール
22日(日) ジュニアの部・高等学校の部②・レディーの部・一般の部	於 韶の森 桶川市民ホール

☆第46回 全日本おかあさんコーラス埼玉県大会

令和5年3月4日(土)・5日(日)	於 和光市民文化センター サンアゼリア
-------------------	---------------------

皆様の参加をお待ちしています！



ホールに響き渡った106団体の演奏

第 65 回

埼玉県合唱コンクール

2022年 8月20日(土) 高等学校部門

21日(日) 小学校部門・中学校部門(混声・同声)

28日(日) 彩の国部門・大学職場一般部門(大学ユース・混声・室内・同声)

於: さいたま市文化センター

第65回埼玉県合唱コンクールは、8月20日(土)高等学校部門、21日(日)小学校・中学校部門、28日(日)彩の国・大学職場一般部門と3日間にわたり、さいたま市文化センターで開催されました。3日間の参加団体数は小学校部門3団体、中学校部門混声合唱の部11団体、同声合唱の部16団体、高等学校部門33団体(音源2団体、棄権1団体を含む)、彩の国部門20団体、大学職場一般部門、大学ユース5団体(シード団体を含む)、混声4団体、室内10団体(シード団体、棄権1団体を含む)、同声6団体(シード団体を含む)となりました。

今年度は感染対策を万全に行いつつ、従来のコンクールに戻していく試みをはじめました。とはいっても、まだまだコロナ禍ではありますので、ナンバープレート上での歌唱やマスク

の着用、検温の実施と皆様にもたくさんのご協力をし



ていただき感謝いたします。入場者の制限は行わず、出演者が他団体を聴くこともできるようになったり、人数制限はありませんが、表彰式も実施いたしました。

先の見えない状況がまだ続いているが、来年度は皆様で表彰式が行えるよう準備を進めて参ります。そして、皆様の素晴らしい歌声が響き渡る大会になりますよう埼玉県合唱連盟一同努力して参りますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

(常務理事 松川 大)

撮影:スタッフ・テス株

第77回関東合唱コンクール審査結果

★高等学校部門 A グループ

【金賞】県立川越高校音楽部

★高等学校部門 B グループ

【金賞】県立松山女子高校音楽部(支部長賞)、県立浦和第一女子高校音楽部、叡明高校合唱部、
埼玉栄高校コーラス部、星野高校音楽部

【銀賞】県立浦和高校グリークラブ、県立大宮高校音楽部

★中学校部門 混声合唱の部

【金賞】さいたま市立宮原中学校合唱部

【銀賞】春日部市立武里中学校音楽部

【銅賞】所沢市立南陵中学校合唱団

★中学校部門 同声合唱の部

【金賞】所沢市立向陽中学校コーラス部

【銀賞】所沢市立狭山ヶ丘中学校合唱部

【銅賞】深谷市立幡羅中学校音楽部、横瀬町立横瀬中学校音楽部

★大学職場一般部門 大学ユース合唱の部

【金賞】Ensemble SAKAE

【銀賞】Youth Choir "Luminaries"

★大学職場一般部門 室内合唱の部

【金賞】La Mer、クール・ヴァン・ヴェール

【銀賞】CLARA、西武学園文理合唱団

★大学職場一般部門 同声合唱の部

【金賞】男声合唱団 Le Terre、男声合唱団 APERTASS

★大学職場一般部門 混声合唱の部

【金賞】scatola di voce

下線の団体は全国大会への代表



先生！お話し聞かせてください 小畠 恒夫先生インタビュー

佐々木) 3日間に渡る長時間のご審査、誠にありがとうございました。全日程を終えて、今年度のコンクールの印象をお聞かせいただけますか？

小畠先生（以下敬称略）この20年ほど埼玉県合唱コンクール、ヴォーカルアンサンブルコンテストの審査にお招きいただいている。いつも感じることは、取り組みが前向きで良い演奏をする団体が多いということ。団員の皆さん、そして指導者の両方にそれを強く感じていました。特に今回は様々な制限があるなかで、その「前向き」という印象が変わらなかった。素晴らしいことだと思います。

佐々木) マスクを越えて何かを伝えたいという想いが客席にもしっかりと届いていたということでしょうか？

小畠) マスクをつけることでの歌いづらさや練習時間の制限等があったでしょう。しかし、それらをあまり感じさせなかった。それは皆さんのが困難な状況にありながらも合唱の魅力、そしてこの場に集うことの喜びを強く感じていたからではないでしょうか？私自身もそこに心を動かされつつ審査をさせていただきました。

佐々木) 続いて先生の審査の観点をお聞かせいただけますでしょうか？

小畠) 私は音楽評論家という肩書きですが、声楽科出身ということもあります、「いかに声が自然にているか」を第一の観点としています。「声」はただ出でていればよいというものではありません。「声」以前に演奏する楽曲があり、その楽曲の解釈があり、歌詞・言葉があり、フレーズがあります。それらを前提として、皆で作り上げた美しい響きが自然に出てくる音楽。その音楽が声に乗ってこちらに伝わってくるときに、声が自然にていると感じ、高く評価します。

佐々木) 「自然な声」について更に詳しく教えていただけますか？

小畠) 技術的には、呼吸が正しくできていることが重要だと考えます。ご存じのように呼吸をそれほど意識しなくとも声は出るし、ハーモニーを生むこともできる。しかし、そ



左から 小林副理事長、
小畠先生、佐々木常務理事

の呼吸では音楽が自分たちの中だけで完結してしまいます。呼吸をしっかり意識して皆で響きを作

り出すと、その息の流れにより「声」そして「音楽」が人に伝わるものに変化していく。「呼吸」という観点では、今年はマスク着用の影響からか、外に向かって大らかに息を流している団体が少なかったと感じています。

佐々木) 舞台での呼吸、人に向かっていくための呼吸を意識しなければならないということですね。

小畠) コンクールや演奏会では、どうしても舞台上で緊張しますね。そして大らかな呼吸ができなくなってしまう。ですから意識と訓練が必要だと思います。「本番で間違ってはいけない」、「ハーモニーを決めなければいけない」等の意識が過度な緊張を生んでしまいます。その緊張をほぐすために、自分を舞台上でさらけ出し「少しくらい間違ってもいい！」という気持ちの大らかさが大事だと思います。大らかな精神と大らかな呼吸は連動するものですから。

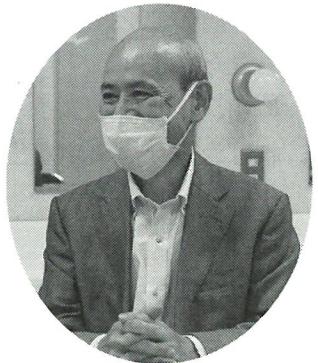
佐々木) コンクールであっても「歌」「合唱」の原点は皆で歌うことの喜びであることを忘れてはいけないということですね。

小畠) もう一つの観点は「共感」です。演奏する皆さんがその曲にどれだけ共感しているかを聽きます。これは演奏が醸し出すものですから、感覚的に捉えています。「伝わってくるもの」と「なんとなく美しく整えてきたもの」の差とでも申しましょうか。多くの団体を審査しますと、その差がはっきりと見えてきます。曲の解釈が自分たちのなかで咀嚼されているか、さらにそれが自分たちの中だけで完結せずに外に向かって表現できているか、が重要です。これが「共感」と考えます。ですから技術的には、先ほど申しました、様々な意味を持った「自然な声」と、感覚的には作品に対する強い「共感」が大きな2つの観点です。

佐々木) コロナ禍において、呼吸というものが極めてネガティブに捉えられています。最大限の感染対策をしながらも、合唱を愛する私たちは「呼吸」が声、表現、アンサンブルにおいて最も重要なものの1つであることを忘れてはいけないということですね。「自然で大らかな呼吸」「共感」をキーワードに、合唱活動に励んでまいります。

本日は貴重なお話を伺うことができました。ありがとうございました。

インタビュー：常務理事 佐々木憲二
撮影：埼玉県合唱連盟





クラウドファンディングについて

今年度の総会で会員の皆様に企画予告をいたしましたクラファンプロジェクトですが、現状をお伝えさせていただきます。

当初、7月頃のスタートを想定しながら企画を進めてまいりましたが、確認や許諾等、様々にクリアしなければならない事項が出てまいりまして、企画開始までもう少しお時間をいただくような状況です。



これまでに決定をしているところをまとめますと次のようにになります。

- 1 プロジェクト名：「埼玉県合唱連盟応援プロジェクト これまでも これからも」
- 2 クラファンサイトは『CAMPFIRE』を予定
- 3 目標金額は「1,000,000円」
- 4 リターン品として
 - 1)『たまりん♪』キーホルダー（いま連盟の人気キャラクターのクラファン限定グッズ）
 - 2)スペシャルサポーターPASS（連盟が主催する事業に複数回無料で入場できます）
 - 3)スペシャルCD「彩りのハーモニー」全3種類
 - #1 混声編、#2 女声編、#3 男声編

（ここ5年間の埼玉県合唱コンクールや埼玉ヴォーカルアンサンブルコンテストでの金賞団体の演奏を集め編集したクラウドファンディング限定のCDです。なお、#3の男声合唱編は金賞団体以外も収録されています。）
- 4)その他 特別な品もご用意する予定です。

コースは、3,000円、5,000円、10,000円、15,000円、20,000円、30,000円をご用意いたします。



この企画実現に向けて、これまでにも、多くの合唱団の皆様のご理解とご承諾をいただいておりますが、引き続きご協力をいただければと思います。

今年度、ここまで皆様方のご理解とご協力で合唱祭、ワークショップ、コンクールと事業を実施することが出来ており、大変ありがとうございます。



しかし、連盟財政面からすると、まだまだ大変厳しい状況であることに変わりはなく、このクラファンを通じまして、皆様方からのご支援をいただきながら、引き続き連盟運営を続けて参りたいと思っております。準備が出来次第、さまざまな方法で告知をさせていただきますので、その節はご支援をどうぞよろしくお願い申し上げます。

（クラウドファンディング検討委員会
副理事長 國弘 雅也）



いろどり 「彩のうたⅡ」誕生秘話

- 令和 3 年 10 月 〇〇 日 第 1 回 「彩のうたⅡ」作成委員会（4 名）を行い、発行に至るまでの手順を練り、互いの展望を語り合った。
 - 大筋は以下のとおりである。
 - ①令和 4 年度の合唱祭（6 月）に間に合わせたい。 ⇒ ということは、その前にできていないと皆さんが練習できないから、4 月の総会で配布した方が良いか。
 - ②元祖「彩のうた」に比べ、若い作曲家の作品を多く掲載したい。
 - ③値段は元祖と同程度にしたい。
 - ④たまりん♪のイラストを入れたい。 etc.
- この委員会後、元祖の作成・編集でお世話になった教育芸術社の〇〇さんに要望を伝えたところ、「期間的に無謀」との回答。「だよな～」と委員会メンバーは納得するも、「私たち委員会も頑張りますので、是非！」とお願いし、「5 月中旬以降から 6 月までの発行なら何とかやりましょう。」とのこと。「よっしゃー！」と委員会一同はこぶしを握り、決意を新たにした。
- 11 月には県連理事にも選曲に関する案・アイデアを募集した。実に様々な曲が出され、曲名・演奏形態別にみると、200 種類にもなった。
- 令和 3 年 12 月 〇〇 日 年の瀬も押し迫る頃の夜、県連理事〇さんの住むマンションの会議室にて委員会を開き、選曲に取り組む。 ⇒ ちなみに、この会議後メンバーをささやかなクリスマス会でもやって労いたかったが、それぞれの所用のため、後ろ髪が引かれる思いでみな帰路に向かった。

これは、作成に取り組む当初の記録で、先ずは以上のような状況から始まりました。

元祖「彩のうた」は 2009 年に発行しましたが、曲数は 34 曲で、同声二部・三部、混声三部・四部の演奏形態の幅を持ち、103 ページのものでした。この度のⅡでは、曲数は演奏形態も分けてみると 22 曲で、119 ページとなりました。

今までの「彩のうた」の使い道は主に全員合唱の場でしたが、今からはコンセプトが多少変わり、それにプラスして合唱の様々な場面で活躍でき得るものとなるよう作成しました。いわゆる「おいしいとこ取り」の合唱曲集です。

曲目によっては、掲載に至るまでにいろいろな経緯がありました。

●エピソード 1

そもそもこのⅡはコロナ禍の大変な中、「何もできない」と手をこまねいているだけではいけない。今できることを始めよう！ということで動き始めましたが、殆どの合唱活動が停止状態のため、県連も当然赤字財政の渦中でした。

そんな中、「母に贈るうた」の作詞・作曲の高橋晴美さんにⅡの作成の趣旨と協力へのお願いを申し上げたところ、掲載を承諾していただきました。しかも、私たちが最も気になっていたのは著作権と原稿料でしたが、高橋さんは理解を示してくださいり、「そういう形で愛を届けられるのであれば」と言って、全面的に協力していただいたのです。高橋さんの愛を感じて歌っていただければと思います。

●エピソード 2

「この道を行く」は、あのオフ・コースの小田和正さんの作詞・作曲による男声四部合唱曲です。この曲も県連理事からの強い要望がありました。しかし、これは早稲田大学グリークラブの皆さんに贈られたものであり、学生さんたちは製本された楽譜は持っておられないとのこと。さすがにこれには出版社も「無理では」と。我々も半ば諦めかけていたところ、ご指導で関わっておられる合唱指揮者の山脇卓也先生もいろいろと調べてくださり、「いけるんじゃないかな」と背中を押していただき、更にグリークラブの 115 代学生指揮者の今井啓聖さんは県立川越高校のOB で、Ⅱ作成の趣旨に賛同してくださいり、団員の方々からの承諾をいただけるようご活躍いただきました。

このように、彩のうたⅡは多くの方々のご協力のもと、さわやかで愛らしい合唱曲集となりました。完成までの県連担当理事と出版社との打ち合わせメールのやり取りは 100 回を超すものとなり、休日だろうが夜中だろうが容赦なく飛び交っていました。

この、愛と力の結集した「彩のうたⅡ」を末永く愛用していただければ幸甚です。

(彩のうたⅡ検討委員会 理事長 小野瀬 照夫)

♪私たちの場所

Stage



La Passione

団員 岡村久美子

La Passioneは久喜市で活動している女声合唱団です。団員は現在10人ですが、久喜市は元より白岡・宮代・大宮・千葉からも集まって、市内の公民館で毎週木曜日、午前10時から12時まで練習しています。

創団20年以上になりますが、数年前より若くて気鋭の佐藤健太先生を指揮者にお迎えして指導を受けています。先生は声楽の基礎を毎回手を替え品を替え、言葉をつくして説明してください私たちに実践させます。先生の熱意と私たちのプライドと意地の成果により、最近は先生からパッシオーネとしての歌声になってきましたと言われております。

コロナ禍の中、3年ぶりに6月の合唱祭で歌いましたが、『歌うこと』を続けていきたいと思います。

川口市立高等学校・附属中学校合唱部

部員代表 大和由奈・葛木優花・朱 宇瞳
顧 問 小松直詩・山田千尋・吉田憲子

平成30年、川口総合高等学校音楽部と県陽高等学校音楽部が合併し、川口市立高等学校合唱部となりました。更に令和3年度より附属中学校が併設され、附属中学校合唱部が誕生しました。中学校・高校それぞれに活動の制約があり、更にはコロナ禍において活動制限をされる中、活動日・時間を工夫してなるべく一緒に活動できるよう努めています。

技術的にも音楽的にもまだまだの合唱団ですが、毎回の練習は明るく、楽しく、また中高生とも各学年の年の差をお互いに尊重し合いながら活動しています。

盈進学園東野高等学校合唱部

顧問 大森久美子

私たちは9人と部員数が少ないながらも音楽が好きな生徒が集まり、日々活動をしています。この2、3年間はコロナ禍で思うような活動と発表が出来ず、実は先日6月の合唱祭が部員全員、高校での初ステージでした。昨年の文化祭でオンライン（しかも録画！）での演奏は経験したものの、大きなステージとたくさんのお客様の前で歌えたのは本当に初めてでした。緊張で震えつつ、しかも練習不足な演奏ではありましたが、演奏後には皆様から温かい拍手をいただき、とても幸せな時間を過ごさせていただきました。言うまでもない事ですが、ステージって本当に幸せな空間ですよね！この喜びを胸にこれからも感染対策に気をつけながら活動していきたいと思います。

柏グリーンハーモニー合唱団

合唱連盟担当 小賀野富茂

私たちは本庄高校音楽部顧問・飯浦直哉先生の指揮で卒業後も歌いたいと1967年音楽部卒業生により結成されました。団名の柏は母校の校章に由来します。その後卒業生以外の方たちの参加を得て現在まで55年間一人の指揮者のもと歌い続けている混声合唱団です。

現在団員は33名、年齢は20代から80代と幅広いですが、結成当初から変わらず家族的でお互いを尊重し合いながら楽しく活動しています。「合唱はエンターテインメントだ！」を合言葉に、時代とジャンルを超えた多彩な選曲により、合唱祭やコンクールへの参加をはじめ多くの演奏会を開催してきました。

現在55周年記念コンサート開催に向け練習に励んでいるところです。



埼玉県合唱連盟公式

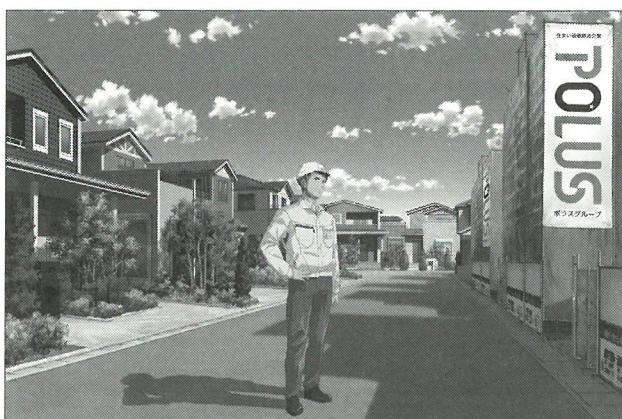
Twitter Facebook



編 集
後 記

Pause57号をお届けいたします。コロナ禍でも徐々に通常の形に戻ってきた各事業の報告と、合唱コンクール審査員小畠恒夫先生と、全日本合唱連盟理事長を長年務められた岸信介先生へのインタビューです。今後も皆様の豊かな合唱ライフをお手伝いします。

(理事 浅子 元)



この街に住み、この街をつくる。
私たちはポラスです。



2022.9.21(水)～11.20(日)

ポラス株式会社 埼玉県越谷市南越谷1-21-2 TEL:048-989-9119
ポラスのモデルハウスへの来場は、混雑を避けるために事前予約制となっています。詳しくはHPをご確認ください。



住まい価値創造企業
POLUS
ポラスグループ

ポラスの分譲住宅